



SUPER FORMULA レースレポート

2018 SUPER FORMULA シリーズ第 6 戦

山本、チャンピオン争いに望みをつなぐ。

シリーズ名：2018 全日本スーパーフォーミュラ選手権
大会名：2018 年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 6 戦 OKAYAMA
距離：3.703km×54 周 (199.962km)
予選：9 月 8 日 (土) 雨・観衆:5,400 人 (主催者発表)
決勝：9 月 9 日 (日) 雨・観衆:8,000 人 (主催者発表)

2018 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第 6 戦が、岡山県岡山国際サーキットで開催された。TEAM MUGEN は、#16 山本尚貴、#15 福住仁嶺の 2 カー体制でこのレースへ参戦した。前回に引き続き出走する福住は、このシリーズ 3 戦目である。

● 9月8日 (土)

■フリー走行

#15 福住 7番手 1分27秒125

#16 山本 16番手 1分28秒105



土曜日午前9時45分から1時間の予定でフリー走行セッションが行われた。岡山国際サーキットは夜半から雨になり、コースは気温、路面温度とも低めのウェットコンディションとなった。雨が断続的に強まったり弱まったりする状況の中、#15 福住、#16 山本とも、レインタイヤを装着してコースイン、周回を始めた。セッション開始後5分でコース上に停止車両が生じたためセッションは赤旗中断、午前10時に改めてコースオープンとなった。

#15 福住は通算24周を走り22周目に1分27秒125を記録し7番手、#16

山本は通算20周を走り11周目に1分28秒105を記録し16番手につけてフリー走行を終えた。

■公式予選

#16 山本 (Q1: 14位 1分28秒530 Q2: 10位 1分26秒803 Q3: 出走せず)

#15 福住 (Q1: 18位 1分33秒377 Q2: 出走せず Q3: 出走せず)

3回のセッションにわたるノックアウト方式の公式予選は午後3時15分、20分間のQ1セッションから始まった。朝から降っていた雨は一旦止んだが、コースは完全にウェットコンディションで、各車レインタイヤを装着してコースインした。ところがまだタイヤも暖まりきらない2周目、#15 福住が1コーナーでスピン状態に陥ってコースオフ、グラベルに足を取られて走行不能の状態となってしまった。

その直前にもコース上で停止した車両が生じていたためセッションはここで赤旗中断となった。#15 福住は自力でコースへ帰還することができなかつたため、これ以降の走行はできず、予選順位は18位と決まった。一方ピットに戻った#16 山本は路面コンディションを考慮してピットで新しいレインタイヤに交換、午後3時37分にセッションが再開されるとコースインした。雨が増えると予想された天候は悪化することなく、コースコンディションは徐々に水が減って好転してきた。#16 山本はピットストップを挟んで12周を走り10周目に1分28秒530を記録、Q2進出14台中14番手でQ1を突破した。

Q2に向け、チームは#16 山本のセッティングを調整、セッションに臨んだ。#16 山本はタイヤを暖めると3周目に1分27秒271を記録してその時点で4番手につけ、4周目にはタイムを1分26秒803に縮めたが順位は8番手へ後退、5周目のアタックではタイムが1分26秒933に終わり10番手となってQ3進出はならなかった。

● 9月9日 (日)

■決勝

#16 山本 10位 (34周 1時間12分09秒422 ベストラップ1分32秒316)

#15 福住 18位 (30周 1時間03分12秒523 ベストラップ1分30秒356)

日曜日午前 9 時から 30 分間にわたってフリー走行が行われた。朝から雨が降り続き、コースはヘビーウェットコンディションとなった。TEAM MUGEN の 2 選手はレインタイヤを装着してコースイン、福住は 8 周走って 1 分 32 秒 674 で 14 番手。山本は 3 周のみの走行に留め、1 分 35 秒 414 で 19 番手だった。



決勝レース前には雨が強まったこともありコース上には各所に深い水たまりができていたコンディションとなった。ウォームアップでは 2 選手ともレインタイヤを装着、#15 福住は 5 周を走って 3 番手となる 1 分 30 秒 507、#16 山本は 4 周を走って 15 番手となる 1 分 33 秒 432 を記録し、それぞれスターティンググリッドについた。

審査委員会は、コースコンディションが非常に危険であると判断し、レース距離を 68 周から 54 周に短縮、最大競技時間を 70 分、スタート時刻を午後 2 時 55 分へ変更する決定を下した。

午後 2 時 55 分、決勝レースがセーフティーカー先導でスタートした。しかしコースコンディションはレースをするには危険なレベルで悪く、先導走行を 7 周した後赤旗提示によってレースは中断された。

天候回復を待ち、午後 4 時 10 分に再びセーフティーカー先導でレースが始まった。この時点で最大競技時間は 51 分 23 秒とされた。12 周走行時点でセーフティーカーは退き、グリーンフラッグが振られた。#16 山本は 9 番手でレースを始め、18 番手スタートの #15 福住は 13 周目に 16 番手、14 周目には 14 番手へ進出した。

その後 #16 山本は 9 番手のポジションを守り、#15 福住はさらにオーバーテイクを続け、17 周目に 13 番手、20 周目に 12 番手、21 周目に 11 番手と順位を上げた。しかし 23 周目の最終コーナーでアウト側からオーバーテイクをかけようとした際に内側から接触を受けスピン、コースに復帰できたものの順位は 15 番手へ後退してしまった。

このときコース上に停止車両が生じたためセーフティーカーがコースイン、26 周終了まで先導走行となった。27 周目にレースが再開されると #15 福住は再びオーバーテイクを開始し、27 周終了時点で 13 番手、28 周目に 12 番手、29 周目に 10 番手へと順位を上げた。一方 #16 山本は 28 周目に 10 番手、29 周目には #15 福住を先行させ 11 番手へと後退した。

オーバーテイクを続け 10 番手にまで上がった #15 福住はさらに順位を上げようと先を急いだが、31 周目のアトウッドコーナーで勢い余ってスピン、コース上に停止してしまった。#15 福住はここでレースから脱落、マシンを回収するためセーフティーカーがコースインした。しかしその後、最大競技時間を迎えたため、レースは先導走行のまま 34 周で終了した。#16 山本は 10 位でチェッカーフラッグを受けた。

#16 山本は選手権ポイントを獲得することはできなかったが、今回のレースが当初予定されていた周回数 54 周の 75% に達することなく終了したため、与えられる選手権ポイントは半分となり、通算ポイント 24 点の #16 山本はランキングトップの選手から 5 点差の 3 番手となった。10 月 27 日から 28 日にかけて鈴鹿サーキットで開催されるシリーズ最終戦では優勝するとボーナスポイント 3 点が与えられるため、#16 山本はポルトゥウインすると自力で王座を奪取できる計算となる。

■山本尚貴選手のコメント



「あまり調子が良くないまま週末が終わってしまいました。ドライバーとして、良い調子に持って行けなかったことに責任を感じます。公式予選の Q1 があまり良くなかったので Q2 に向けてセットを変えたところ、状態は良くなったのですが、Q3 へ行くには足りませんでした。決勝は大変なコンディションでした。雨の中待っていてくれたお客様のためにも良い走りをしたかったのですが、最後にポジションを落としてしまったのが残念です。でも最終戦で勝った者がチャンピオンになれるので、追われる立場から追う立場になって、もう失うものは何もないですし、思い切って行くだけだと気持ちを切り替えます」

■福住仁嶺選手のコメント

「最後は、単純にぼくの突っ込みすぎでコースオフしてスピンしてしまいました。スタートポジションがけっこう後ろだったので、前が見えなくて少し不安でしたが、いざスタートしたら視界は悪かったものの自信を持って攻めることができました。攻めた結果失敗してスピンしてレースを終えてしまったので、反省する面も悔しい面もあるのですが、今週あまり流れが良くない中、セットアップの方向性も見えたし、レースではペース良く走れたりもしたので、ポジティブに捉えようと思います」



■手塚長孝監督のコメント



「金曜日は 2 台で分担して、16 号車はロングランして決勝想定の設定アップ、15 号車はいかに速く走るかを追求してクルマを仕上げました。ただ土曜日は雨になり、15 号車は1周もアタックできずにコースオフ、16 号車は徐々に方向性を見つけながら走ったのですが、少し足りずに Q3 に進めませんでした。決勝では、序盤良かった 16 号車のペースが、セーフティーカー後に雨が増え、グリップが足りなくなり（ペースが）上がらなくなってしまったようです。15 号車はフルウェット想定でブランキングしたブレーキが少しオーバーヒート気味になったようです。ただとても元気ある走りには、ピットで見ていたチームのみんなが元気づけられました。最後にセーフティーカーを出してそのままレースが終わってしまう原因になったことについてはみなさまに申し訳ないと思いますが、次につながる走りでした。山本選手はポイントが獲れませんが、ライバルの得点も伸びなかったため、得意な鈴鹿の最終戦で

チャンピオンめざし全力を尽くして頑張ります」

■ Rankings

2018
STANDINGS DRIVER/TEAM

Po.	DRIVER	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Total
		SUZUKA	AP	SUGO	FUJI	MOTEGI	OKAYAMA	SUZUKA	
1	No.3 ニック・キャシディ / KONDO RACING	2	0	8	11	6	2		29
2	No.1 石浦宏明 / JMS P.MU/CERUMO・INGING	5	0	0	8	11	1		25
3	No.18 山本尚貴 / TEAM MUGEN	11	0	10	1	2	0		24
4	No.19 関口雄飛 / ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	8	0	0	3	0	6		17
5	No.20 平川亮 / ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	0	1	0	5	8	3		17
6	No.5 野尻智紀 / DOCOMO TEAM DANDELION RACING	6	0	3	0	1	2.5		12.5
7	No.36 中嶋一貴 / VANTELIN TEAM TOM'S	1	0	6	4	-	0		11
8	No.18 小林可夢偉 / carrozzeria Team KOMG	0	0	3	0	-	4		7
9	No.2 国本隆資 / JMS P.MU / CERUMO・INGING	0	0	0	6	0	0.5		6.5
10	No.8 大嶋和也 / UOMO SUNOCO TEAM LEMANS	0	0	0	2	4	0		6
11	No.4 山下健太 / KONDO RACING	0	0	1	0	3	1.5		5.5
12	No.6 松下信治 / DOCOMO TEAM DANDELION RACING	0	0	0	0	5	0		5
13	No.7 トム・デイルマン / UOMO SUNOCO TEAM LEMANS	0	0	5	0	0	0		5
14	No.64 ナレイン・カーティケヤン / TCS NAKAJIMA RACING	0	0	4	0	0	0		4
15	No.65 伊沢拓也 / TOS NAKAJIMA RACING	4	0	0	0	0	0		4
16	No.17 塚越広大 / REAL RACING	3	0	0	0	0	0		3
	No.37 ジェームス・ロシター / VANTELIN TEAM TOM'S	0	0	0	0	0	0		0
	No.50 千代勝正 / B-Max Racing team	0	0	0	0	0	0		0
	No.15 福住 仁輔 / TEAM MUGEN	0	-	-	-	0	0		0

2018
STANDINGS DRIVER/TEAM

Po.	TEAM	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Total
		SUZUKA	AP	SUGO	FUJI	MOTEGI	OKAYAMA	SUZUKA	
1	KONDO RACING	2	0	9	10	9	3.5		33.5
2	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	8	0	0	8	8	8		32
3	JMS P. MU/CERUMO・INGING	5	0	0	14	10	1.5		30.5
4	TEAM MUGEN	10	0	10	1	2	0		23
5	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	6	0	2	0	6	2.5		16.5
6	VANTELIN TEAM TOM'S	1	0	6	4	0	0		11
7	UOMO SUNOCO TEAM LEMANS	0	0	5	2	4	0		11
8	TCS NAKAJIMA RACING	4	0	4	0	0	0		8
9	carrozzeria Team KOMG	0	0	3	0	0	4		7
10	REAL RACING	3	0	0	0	0	0		3
	B-Max Racing team	0	0	0	0	0	0		0

